

DBS グループ・ホールディングス (DBSM)

2018/12 期 1Q(1-3 月)は 25.7%の増益、2018/12 通期

は、融資残高 8%増を目指す

シンガポール | 銀行 | 業績フォロー

BLOOMBERG DBS:SP | REUTERS DBSM.SI

- 2018/12 期 1Q (1-3 月) は、総収益が前期比 16.4%増の 33.60 億 SGD、純利益は同 25.7%増の 15.21 億 SGD であった。
- 大企業向け融資、トレードファイナンス、消費者向けローンが伸びたほか、純金利マージンも改善。非金利収益もウェルスマネジメントやクレジットカードなどが牽引し好調だった。
- 2018/12 通期の会社計画は、融資残高の増加率が 8%である。2018/12 通期の市場予想は、当期利益が前期比 35.2%増の 59.11 億 SGD。

What is the news?

2018/12 期 1Q (1-3 月) は、総収益が前期比 16.4%増の 33.60 億 SGD、純利益は同 25.7%増の 15.21 億 SGD であった。総収益のうち、貸出利鞘である正味受取利息は、同 16.2%増の 21.28 億 SGD。大企業向け融資、トレードファイナンス、消費者向けローンが伸びたことで、為替変動を除くベースの期中平均運用資産は同 11%増となった。純金利マージン (NIM) も、シンガポールドル高や米ドル、香港ドルの金利上昇などを背景に 1.83%と前年同期から 9bp 上昇した。非金利収益のうちブローカレッジや投資銀行、クレジットカードなどの受入手数料は同 11.9%増の 7.44 億 SGD。バンカシュアランス商品や投資商品の販売が伸びたことで、ウェルスマネジメント手数料が同 49.1%増と牽引した。クレジットカードやデビットカードの取扱高の増加も寄与。その他非金利収益は、同 25.1%増の 4.88 億 SGD。純トレーディング収益の伸びが継続したことや香港の不動産売却益などが寄与。費用面では、経費率が 42%と前年同期から 1%改善。また、不良債権の計上額が 4 年ぶりの低水準となったことで貸倒引当金繰入額が 1.64 億 SGD と同 18%減少した。2018/3 末、融資残高は前年同期末比 10.0%増の 3,282.18 億 SGD。NPL レシオ (不良債権比率) は 1.6%と 2017/3 末の 1.4%から悪化。預金残高は、同 9.7%増の 3,758.26 億 SGD 増。預貸率は 87.3%と 2017/3 末の 87.1%から改善。

地域別の業績は以下の通り。シンガポールは、総収益が同 11.4%増の 20.84 億 SGD、純利益が同 10.4%増の 9.38 億 SGD。香港は、総収益が同 37.6%増の 7.21 億 SGD、純利益が同 91.2%増の 4.36 億 SGD。その他中国本土は、総収益が同 33.7%増の 2.78 億 SGD、純利益が同 94.7%増の 4,700 万 SGD。南アジア・東南アジアは、総収益が同 2.1%減の 1.91 億 SGD、純利益が同 50.0%減の 2,200 万 SGD。その他は、総収益が同 3.4%減の 8,600 万 SGD、純利益が同 2.0%増の 5,100 億 SGD であった。

How do we view this?

同社は世界経済について、2018 年も成長モメンタムは維持されるとしており、貿易摩擦の影響はテクノロジーを除くセクターに対しては軽微だと見ている。また、主要中銀による金融引き締め政策も、経済成長の足枷にはならないと見ている。2018/12 通期の会社計画は、融資残高の増加率が 8%、純金利マージンが 1.85%、経費率が 43%である。2018/12 通期の市場予想は、当期利益が前期比 35.2%増の 59.11 億 SGD である。

業績推移

※参考レート 1SGD=81.75円

事業年度	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12F	2019/12F
当期利益(百万SGD)	4,454	4,238	4,371	5,911	6,626
EPS(SGD)	1.77	1.66	1.71	2.28	2.54
PER (倍)	16.29	17.37	16.87	12.65	11.35
BPS(SGD)	16.15	17.59	18.56	18.96	20.33
PBR (倍)	1.79	1.64	1.55	1.52	1.42
配当(SGD)	0.60	0.60	0.93	1.17	1.24
配当利回り (%)	2.08	2.08	3.22	4.06	4.30

(出所:会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想 (SGD) **1.17** (予想はBloomberg)
終値 (SGD) **28.84** 2018/5/10

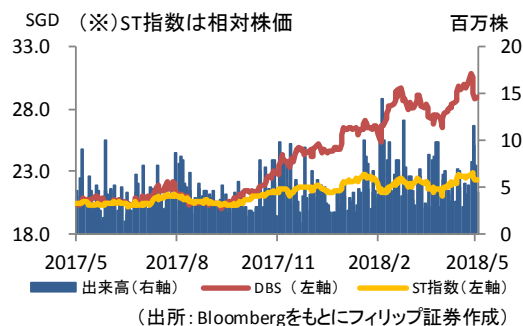
会社概要

1968年にシンガポールの工業化推進と金融センターとしての発展に必要な開発資金の融資を行う目的のもと、「シンガポール開発銀行」として設立。世界的な金融サービスグループで、18ヶ国で280以上の支店を展開する。アジアの中心の商業銀行として、「Asia Way Banking」という独自のブランドのもと、アジア経済の長期的なポテンシャルを引き出すことに注力している。アジア経済の成長ドライバーとして中国本土、南アジア、東南アジアの3つ地域を掲げ、貿易や投資の仲介に取り組んでいる。また、デジタル技術の活用にも積極的に取り組んでいる。

シンガポール本国では、DBS銀行とPOSB (People's Bank) のフランチャイズチェーンを通じ、マス・マーケットを含めた全顧客セグメントに商業銀行業務・投資銀行業務・証券業務をはじめ、リース・ファクタリングなどユニバーサルバンク・サービスを提供する。それ以外の地域では、コーポレート・投資銀行業務、中小・零細企業向け与信業務、ウェルスマネジメント業務の3つの業務に注力している。

企業データ (2018/5/11)

ベータ値	1.16
時価総額(百万SGD)	75,249
企業価値=EV(百万SGD)	-
3ヵ月平均売買代金(百万SGD)	165.7



主要株主 (2018/5)

1.TEMASEK HOLDINGS PTE LTD	29.27
2.CAPITAL GROUP COMPANIES INC	3.42
3.VANGUARD GROUP	2.16

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

増淵 透吾

togo.masubuchi@phillip.co.jp

+81 3 3666 0707

庵原 浩樹

+81 3 3666 6980

hiroki.ihara@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員 庵原浩樹

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵 透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。